

創学舎ニユース

No.238

世界が敵に

まわった日(その6)

花を売りながらバス代を稼ぎ病院に通う四人の姿は、世の中に人にはどう映ったのかは分からない。ともかく、私の家族の貧しさと絆と愛情の象徴であった。そうやって何十回も通ったのだ。あの祖父と母は…。私は、あの二人が私に、そして弟に、これだけの愛情を注いでくれたことを感謝している。まさに彼等のおかげで、特に私の「生」は支えられたのだ。

思い返せば、そして母や周囲の人の話を加えれば、本当によく病気になるものだ。風邪、肺炎、小児ぜんそく、疫痢、心臓肥大、小児リウマチ(軽くすんだ)、そして脳の病気…。因みに、中学を卒業して以来、薬はほとんど飲んでいない。病院もまず行かない。(中学を卒業して三十年余になるが、病院に行ったのは二、三回だろ。(体を鍛えてきたし、何よりも彼等の配慮が大きかったと思う。)

また話を子供時代に戻そう。私には、反抗期がなかった。いや、東京に出てきたことが私にとっての反抗だったのかもしれない。あの時、あのみすぼらしい家と、少し重い故郷の空気と、がまんすることのみ多い人生を送る(その時は

そう思っていた)母と祖父を一度捨てたのであった。私にいわゆる反抗期がなかったのはこういう理由だ。とにかく、母や祖父が一生懸命生きていることを毎日実感していたからだ。そして、周囲に、私や私の家族に冷たい視線を浴びせる人達が一定数いたからだ。そういう人達こそが、私の怒りの対象であつたし、普通であれば反発の対象である母は自分にとっての完全な味方であり保護者であつた。

ただ、反発もしない代わりに、実は行動として十分に甘えたという記憶もない。夜寝るときは、私は祖父と一緒に、弟は母と一緒に、甘えるのもストレートだった。私はいつも、母や祖父の顔をどこかでうかがっていた気がする。勉強や運動や生徒会と、それなりには頑張ったが、それは、自分の中の劣等意識を払拭するためであるのと同時に、母や祖父を喜ばせるためでもあつたようだ。

そんな私にとって、小学生になってからの病院通いは、ある意味で幸せな時間であつた。母に連れられて行くことが多かったが、その日は私が主人公になって、母の関心を独占できていると感じられた。中でも大学病院に通う日は天国だった。(因みに私が小学生になると、母も勤めていて、生活保護は受けつつも、「花を売りながらの病院通い」はなくなっていた。(年に数回

は大学病院に行くのだが、朝五時に家を出て夜十時に帰ってくるまで、ずっと母と一緒にあつた。いい服も着せてもらえたり、その日だけは食堂で好きなものを食べることもできたし、検査も時間は長いが痛くはなかったし、おまけに大病院の先生や看護婦さん達もみんな優しくつたから、本当に幸せな一日だった。鹿児島市(私は鹿児島出身です)という都会に行くことも楽しみだった。(以下次号) (小林)

受験生へ...

挫折したかい

九月も終わる。改めて入試までの日数を確認したい。今年もあと三カ月。大学入試のセンター試験は一月中旬、私立大学入試は二月から追って国公立の二次試験も始まる…。また、私立高校の推薦入試は一月中旬から。私立の一般入試は一月下旬…。

春の時点では、まだ遠い先のことのように思っていた入試が、すぐそこまで来ている。そして、時間は加速度的に過ぎていく。それとともに、焦りや不安はどんどん大きくなっていく…。きみは、大きく嘆息する。知らぬ間に涙がほほを伝う。やけくそで、酒を飲む。勉強そっこのでゲームに没頭する。家族に何故かハツ当たりしてしまつ。勉強が進まないと言われ友人は、

実はこっそり勉強していそう。テレビ好きの私が、何を見ても面白くない。推薦で決まっていくな友人を祝福しながら実はねたんでいたり…。「がんばれ」と言われても、何か白々しい。もうどうでもいいやと思ったり…。そのくせいきなり張り切つて勉強してみても…。でも二日で終わり。勉強して何になるのかな…。大学だけが人生じゃない…。

今のきみは、そしてこれからのきみは、こんな状態のいくつかに該当し、該当することになるはずだ。そういう意味では、受験はまさに人の、若者の心を苦しめる。受験の害が叫ばれる所以である。しかし、しかし、できることなら頑張ったほうがよい。少なくとも、進みたい学部や大学があつて、そこに合格したときの自分を想像したとき胸が高鳴るなら、頑張ったほうがよい。進学以外の選択肢を思い浮かべて何も思いつかないなら、やはり頑張ったほうがよい。今の苦しさは限られた期間だけ。やるだけのことをやらなかった後悔は、かなり長く、人にとっては一生続くものなのだ。自己分析をきちんとし、もうひと頑張りしてみないか。

ところで、周りを見渡せば、うらやましい状況に見える人がいる。強い目標や目的があつて、ひたすら打ち込める人。それほど強い思いはないのだが、今まで積み重ねてきた「学力」が抜群で、余裕の人。そんなによっているとは見え

ないのに、要領が良くてスイスイ伸びている人……。しかし、しかし、真実は分からない。きみのように表面に出さないだけで、実は勉強のことで非常に苦しんでいるかもしれない。たまたま勉強はうまくいっているが、実は別の面

で心に闇を抱えているかもしれない。人に言えない重荷を背負っているかもしれない。そう、真実は分からない。
そして、きみだ。きみにはきみの真実がある。きみにしか分からない夢があり、希望があり、欲望があり、理由があり、事情がある。きみ

満足できるのか。頑張ろうという気持ちはあるのに、進めないのは何故か。いつも、目先の誘惑に負けて流される(テレビをダラダラと見たり、長時間ボーっとしたりする)のは何故か。そして、そういう時の一瞬の気持ちに従うことで自分の願望をつぶしてもいいの。逃げないで欲しい。いつもここから逃げたのだから。それで失敗を繰り返していたのだから。そう、逃げてはいけない。逃げるな!

さて、自分との対決は自分の責任で、そう、自分だけの責任で実行してもらおうとして、自分だけでは補いきれないことも実際にはある。先人の知恵というものだ。受験においてもそれは同じで、それを伝えるのは先に生まれた者の役目である。ということ、これからそれを述べる。言つなれば、受験の大原則とでもいうものだ。だから読め。繰り返し読め。大きな紙に書き出せ。一字一句までそっくり暗記しろ。毎日心に刻め。では始める。
何かを成し遂げるためには必ず犠牲が伴う。その犠牲が大きければ大きいほど達成した喜びは大きい。(今のきみが払うべき犠牲は、時間を勉強に費やすこと、一時の快楽を断ち切ることの二つだ。)

く消えてしまつた。歯を食いしばって行動することでのみ、やる気は生き続けるし、大きくなるのだ。)

小さなことでも毎日続けること。(続けることと威力はさまざま。一日に二問数学の問題をマスターしても年間で三六五問。)

常に目標を明確にすること。(これも続けるのは大変だ。しかし、毎日目標が明確になっていけば、ムタなく行動できる。)

最初からたくさんものを同時にスタートせず、核になる科目を作ること。(国立志望者でも核になる二科目を作ること。これで続けられるという状態になってから、他の科目を増やすのだ。)

信頼すべき助言者の忠告は聞くこと。
どの科目も体にしみ込むまで繰り返すこと。
規則正しい生活を続けること。
以上である。とにかく心に刻め。そして勇気を持って動き出せ。(小林)

逆転はあるぞ!

Y君は、高三の六月ごろYゼミから移ってきた。英語の文法も単語も熟語もとんでもない状態。長文なんか読む以前。模試は最後まで低空飛行、E判定のオンパレード。そして、結局、中央大学法学部に合格。

Uさんは、十校くらい受験。偏差値で言えば十番目の所だけ合格で、第二志望から第九志望まで全滅。そして、最終結果、早大合格。

毎年こんな人達がたくさんいる。一体どうしてこんなことが起こるのだろうか?人は、「運がよかっただけさ。」と言つかもしれない。そう、確かに運は良かったのだ。しかし、宝くじではないのだからとにかく合格点は取つたのだ。この「合格点を取つた」という事実を重視して欲しい。勿論、やったことのある問題が出たこと

もあるが、それとてせいぜい一割。残りの問題を解かなければ、合格は不可能だ。では、どうして合格点を取るところまで行けたのか?その秘密を解き明かそう。

まず気迫である。「何としても合格しよう」という気迫である。この気迫があれば、勉強の率は二倍にも三倍にもなる。問題を解くときにも、正解を出すためにありとあらゆるヒントを探し、カンもさえるようになる。今まで使っていなかった能力が発揮されるのだ。では、彼らに不安はなかったのか?いや、あつたのだ。

(以下次号) (小林)

卒業や転校等で創学舎を離れる方にも、ご希望があれば、創学舎ニュースを無料でお送り致します。在籍した教室までご連絡下さい。